

2. 漁場機能の回復に向けた取り組み

漁場機能の回復って何？ ●●

漁 場機能の回復とは、アワビ、サザエ、魚などの住み場やえさとなる海藻の減少、イワガキの付着量の減少といった自然のままでは回復が難しい漁場環境を人工的に改善することです。現在、アラメ移植による海中林の造成やイワガキ漁場の再生、拡大に取り組んでいます。

アラメ海中林の造成

県では、岩盤、漁港内の防波堤、^{せんてい}潜堤などに人工的に育てたアラメの移植を行い藻場の造成に取り組んでいます。青谷や泊では造成したアラメが母藻となり、周辺に胞子をとばしアラメ海中林が形成され、魚介類の産卵場や貝類のえさ場となっています。



アラメの移植風景



造成されたアラメ海中林

イワガキ漁場造成

イワガキの幼生は、フジツボや海藻などがいないきれいな岩盤でないと付着しにくい性質があります。そのため、漁業者は岩盤を掃除してイワガキの幼生の付着を促したり、小型のイワガキを水中ボンドで接着するなどイワガキの漁場づくりに取り組んでいます。



網代地区、夏泊地区の漁業者は岩盤清掃によるイワガキ漁場造成に取り組んでいます。



浜村地区の漁業者は、天然海域から稚貝を採取し海中のブロックなどにボンドで接着する取り組みを行っています。